

配布資料一覧

1－1	秋田県高等学校教育のめざすもの・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（「第七次秋田県高等学校総合整備計画」 第Ⅰ部から）	
1－2	計画の体系図・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	（「第七次秋田県高等学校総合整備計画」から）	
2－1	秋田県の高等学校の概要（令和4年度）・・・・・・・・	3
2－2	高等学校の学科について・・・・・・・・	4
2－3	総合学科について・・・・・・・・	5
2－4	中高一貫教育校について・・・・・・・・	6
2－5	全国・秋田県の高等学校数の比較（令和3年度）・・・・	7
2－6	公立高等学校の募集定員と1学年の学級数（令和4年度）・・	8
2－7	秋田県立高等学校の創立からの経過年数及び校舎の整備状況・・	9
3－1	秋田県中学校卒業生数と今後の予測・高等学校全日制課程入学者数と・・	10
	高校進学率の推移	
3－2	秋田県公立高等学校定時制課程 入学者数（当該年度中学校卒業生）・・	11
	秋田県公立通信制課程 入学者数（当該年度中学校卒業生）	
3－3	秋田県公立高等学校・私立高等学校入学者数とその割合の推移・・	12
4－1	令和5年3月以降の中学校卒業生数の予測・・・・・・・・	13
4－2	令和14年3月以降の中学校卒業生数の予測・・・・・・・・	14
	中学校卒業生数の推移	
5－1	普通科・職業学科・総合学科・その他の専門学科の在籍生数の割合・・	15
5－2	令和3年度学科別の在籍生数の割合・・・・・・・・	16
5－3	令和4年度秋田県公立高等学校（全日制）学科別の募集定員とその割合・・	17
6	令和4年度秋田県の高等学校配置図・・・・・・・・	18
7	これまでの総合整備計画・・・・・・・・	19
8	秋田県高等学校の再編整備についての基本的な考え方・基準・・	20
	（「第七次秋田県高等学校総合整備計画」 第Ⅱ部から）	

秋田県高等学校教育のめざすもの (第七次秋田県高等学校総合整備計画 第Ⅰ部から)

生徒の社会的・職業的自立を目指し、社会に貢献する意識を高める取組の推進

変化の激しいこれからの社会においては、生徒の社会的・職業的な自立を目指す教育がこれまで以上に重視されなければならない。自立の基礎となる学力や、社会が抱える課題の解決に取り組む力を育成するとともに、社会貢献の意識を高める教育活動を一層推進していく必要がある。

国においては、高等学校教育の質の確保・向上を図る観点から、基礎学力を客観的に測ることができる新たな仕組みを設けるとともに、大学入学者選抜改革を進めている。

こうした動向も視野に入れながら、これからの社会において求められる学力を育てるために授業や指導法の研究、研修内容の改善などに取り組む必要がある。

グローバルな視野で考え、行動できる人間を育成する取組の推進

国境を越えた人・物・情報の移動・交流が活発化する中、グローバルな視野と幅広く深い教養、優れたコミュニケーション能力等を身に付け、世界を舞台に活躍できる人材の育成が課題である。

異文化との共存や国際協力の必要性を自覚した上で、本県が進める諸外国との友好交流の意義を理解し、ふるさと秋田を内外から力強く支える人材を育成する取組を推進する。

地域との連携に基づく、教育資源の有効活用の推進

少子高齢化や人口減少が進む中、持続可能な地域社会の在り方が議論されている。高等学校教育においては、生徒一人一人が、ふるさとを支え、秋田に貢献しようとする意識をもち、地域の課題に積極的に取り組もうとする意欲を高めることが大切である。また、将来を担う若者を地域全体で育成するという観点から、地域と連携した教育活動をこれまで以上に重視する必要がある。

人材育成の方向性

- ①生涯にわたって学び続ける意欲をもち、志を高く掲げ、自己の能力を磨き、これからの社会を担う気概をもつ人材の育成
- ②社会の変化に柔軟に対応しながら、ふるさとを支え、地域の課題に積極的に取り組むことができる人材の育成
- ③グローバルな視野で考え、国際社会において主体的に行動し、新しい価値を創造できる人材の育成

計画の体系図

第七次秋田県高等学校総合整備計画

第Ⅰ部 社会を生き抜く力と高い志を育てる教育活動の推進

生徒の社会的・職業的自立を目指し、社会に貢献する意識を高める取組の推進

確かな学力を育成し、生徒一人一人の能力・個性を伸ばす取組の推進

社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進

学力向上を目指した魅力ある授業の実践

教員の資質能力の向上を図る研修の推進

グローバルな視野で考え、行動できる人間を育成する取組の推進

国際教育と国際交流活動の推進

グローバル化に対応した外国語教育の推進

地域との連携に基づく、教育資源の有効活用の推進

地域の様々な教育資源の積極的な活用

地域の一員としての意識やふるさとを愛する心を育てる教育の推進

第Ⅱ部 活力に満ちた魅力ある学校づくりの推進

全日制課程における学校規模の適正化と望ましい配置の実現

学級減計画（1学年の学級数）

学校の統合等再編整備の推進

各地区ごとの統合等再編構想（案）

定時制課程・通信制課程の改善と整備

多様な学習ニーズに応える定時制課程・通信制課程の充実

生徒一人一人の学びを支援し、自立を目指す教育活動の推進

中高一貫教育の充実

6年間の計画的・継続的な教育活動の推進

中高一貫教育校の特徴を生かした魅力ある学校づくりの推進

社会の変化に柔軟に対応し、生徒の多様な能力を伸ばすための学科の改善・充実

普通科の改善と充実

職業に関する専門学科の改善と充実

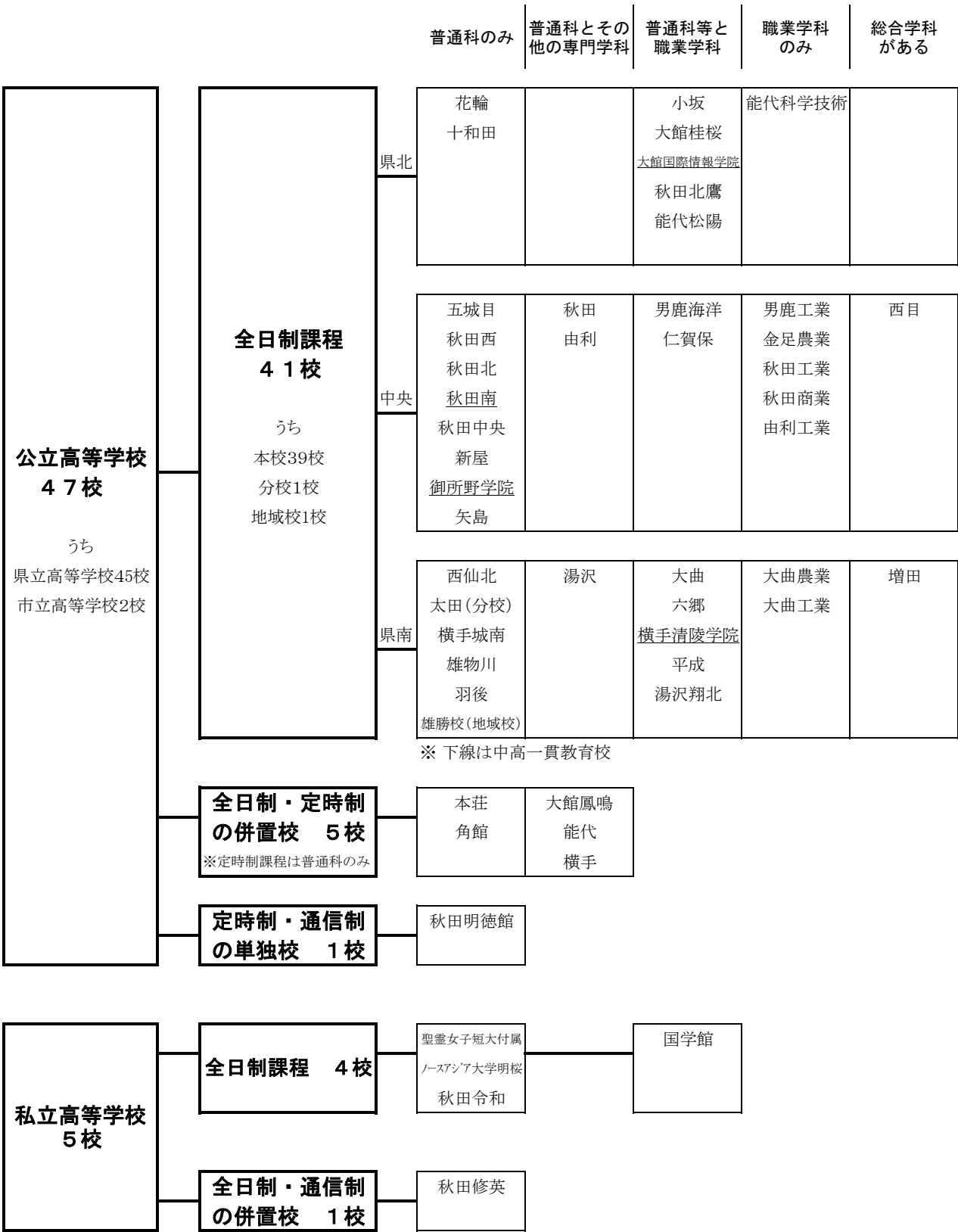
その他の専門学科（理数、英語・国際）の改善と充実

総合学科の改善と充実

実践的な技術・技能を高めるための専門学科における実習設備・機器の更新及び新規導入と効果的な活用

秋田県の高高等学校の概要（令和 4 年度）

※その他の専門学科：理数、国際
※職業学科（職業教育を主とする専門学科）：農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉



高等学校の学科について

【学科の種類】

普通科	普通教育を主とする学科
------------	-------------

専門学科	専門教育を主とする学科	職業教育を主とする専門学科（職業学科）	農業 工業 商業 水産 家庭 情報 福祉
		その他の専門学科	理数 国際

総合学科	普通教育と専門教育を総合的に 行う学科
-------------	------------------------

【教育課程の特徴（イメージ）】

普通教科（各学科に共通する教科・科目）										専門教科・科目	総合的な探究の時間	L H R
国語	地歴	公民	数学	理科	保健体育	芸術	外国語	家庭	情報			

普通教科									専門教科・科目		総合的な探究の時間	L H R
国語	地歴	公民	数学	理科	保健体育	芸術	外国語	家庭情報	専門教科・科目を 25単位以上履修			

普通教科										選択科目		産業・社会と人間	総合的な探究の時間	L H R
国語	地歴	公民	数学	理科	保健体育	芸術	外国語	家庭	情報	総合選択科目	自由選択科目			

25単位以上履修する

総合学科について

○総合学科とは

総合学科は、学びたい科目を自分で考えて選択できるように、普通科でも専門学科でもない、第三の学科として、平成6年から登場した。

- ・幅広く開設された多様な普通科目及び専門科目の中から、自己の興味関心に基づき、履修する科目を主体的に選択する。
- ・また、進路への自覚を深め将来の職業生活の基礎となる知識・技術等を習得するため、「産業社会と人間」、「課題研究」を原則として履修する。
- ・総合選択科目の開設に当たっては、生徒にある程度のまとまりのある学習を可能にするとともに、生徒自身の進路の方向に沿った科目履修ができるようにするため、体系性や専門性等において相互に関連する総合選択科目によって構成される科目群(総合選択科目群)としてまとめて開設している。このグループ名を系列という。

○総合学科の特色 <生徒の主体性や個性の重視>

- ・学年の枠がなく、3年間で必要な単位を修得すれば卒業できる「単位制」を採用。
- ・「産業社会と人間」等の科目やガイダンス機能の充実等により、生徒の将来の進路選択の能力の育成を図ることができる。
- ・普通科目や専門科目が幅広く開設されて、選択科目の単位数が多い。

○総合学科を設置する高校の特色

①西目高校

- ・5つの系列から、自分の興味・関心や、将来の進路希望に応じた系列を選択して、各系列に設定された多様な科目を選択することで、専門性を高めながら、学びを深めている。

※5つの系列：文理、教養文化、ビジネス会計、農業科学、土木

②増田高校

- ・5つの系列に分かれ、専門教科・科目の学習や課題研究を行う。
- ※5つの系列：人文・社会科学、自然科学、芸術・文化、生活・福祉 ビジネス会計
- ・介護技術や老化・認知症の学習、増高産のリングを使用した商品開発、地域イベントでのワークショップの運営、校外での施設実習など、多様な学習活動を行っている。

中高一貫教育校について

○中高一貫教育とは

中学校と高校の 6 年間を接続し、計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として、平成 11 年度から導入された。

6 年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、中央教育審議会の提言を受け、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成 10 年 6 月に成立し、平成 11 年 4 月より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能となりました。(文部科学省HPより)

*教育課程の基準の特例

中高一貫教育校においては、中高一貫教育の利点を生かして 6 年間を通じた特色あるカリキュラムを編成することができるよう特例措置が設けられている。例えば高校における指導内容の一部を、併設する中学校で指導することができる。

○本県における中高一貫教育校の設置形態

中高一貫教育については、生徒や保護者のニーズ等に応じて、設置者が適切に対応できるよう、中等教育学校、併設型、連携型の 3 つの実施形態があるが、県立学校はいずれも併設型である。

*併設型の中学校・高校 … 高校の入学選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高校を接続するもの。

○各県立中学校における特色ある取り組みの推進

①大館国際情報学院中学校・高校

- ・グローバル社会で活躍できる人材を育成するという視点に立ち、6 年間の国際教育や情報教育の充実を図るなど、特色ある教育活動を展開する。
- ・地域の教育資源の積極的な活用や関係機関との連携を図り、グローバルな視野から地域や世界に貢献しようとする意識を高める取組を推進する。

②秋田南高校・秋田南高校中等部

- ・グローバルリーダーとして県内外で活躍できる人材を育成するという視点に立ち、6 年間の英語教育の充実を図るなど、特色ある教育活動を展開する。
- ・大学等との連携を深め、より実践的な英語コミュニケーション能力や国際的な視野、課題を解決する能力を育成する取組を推進する。

③横手清陵学院中学校・高校

- ・未来を切り拓く豊かな創造性と探究する力をもった人材を育成するという視点に立ち、ものづくりを通じて共通教科の学びと工業の学びを結び付けた探究的な学習の充実を図るなど、特色ある教育活動を展開する。
- ・地域社会に貢献する人材を育成する視点から、地域や企業と連携したものづくり教育や地域と密着した研究活動等を展開する。

全国・秋田県の高等学校数の比較(令和3年度)

1. 設置者・課程別高等学校数

		国公立私立の計				公立				私立				国立
		総学校数	全日制	定時制	併置	全日制	定時制	併置	計	全日制	定時制	併置	計	全日制
全国	校数	4856	4222	171	463	2913	167	441	3521	1294	4	22	1320	15
	割合	100.0%	87.0%	3.5%	9.5%	60.0%	3.4%	9.1%	72.5%	26.6%	0.1%	0.5%	27.2%	0.3%
秋田県	校数	52	46	1	5	41	1	5	47	5	0	0	5	0
	割合	100.0%	88.5%	1.9%	9.6%	78.8%	1.9%	9.6%	90.4%	9.6%	0.0%	0.0%	9.6%	

※ 上記校数は、分校、地域校を含む。
※ 分校は全国に89校あり、秋田県には2校ある。

2. 単独・総合別高等学校数

		総学校数	単独校						総合校			総合学科のある学校
			普通	農業	工業	商業	その他	計	普通＋専門	専門＋専門	計	
全国	校数	4856	2594	122	259	164	81	3220	1071	184	1255	381
	割合	100.0%	53.4%	2.5%	5.3%	3.4%	1.7%	66.3%	22.1%	3.8%	25.9%	7.8%
秋田県	校数	52	23	2	4	1	0	30	19	1	20	2
	割合	100.0%	44.2%	3.8%	7.7%	1.9%	0.0%	57.7%	36.5%	1.9%	38.5%	3.8%

※ 専門 … 農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉、理数、国際

3. 参考 令和3年度秋田県の高等学校入学者数(公立私立)

		入学者数	単独校						総合校			総合学科のある学校
			普通	農業	工業	商業	その他	計	普通＋専門	専門＋専門	計	
入学者数	人数	6979	2120	330	492	232	0	3174	2750	125	3596	209
	割合	100.0%	30.4%	4.7%	7.1%	3.3%	0.0%	45.5%	39.4%	1.8%	51.5%	3.0%

※ 1. 2. の資料は文部科学省学校基本調査(令和3年12月22日公表)による。
※ 3. の資料は秋田県教育庁の調査による。

公立高等学校の募集定員と1学年の学級数(令和4年度)

全日制課程

学校名	募集 定員	入学 者数	1学年の学級数				
			40人 学級	38人 学級	35人 学級	30人 学級	
花輪	140	120			普通	4	
十和田	70	31			普通	2	
小坂	70	15			普通1 工業1	2	
大館鳳鳴	210	210			普通5 理数1	6	
大館桂桜	210	201			普通2 生活1	3	
					工業	3	
大館国際情報	150	129	普通	2	国情	2	
秋田北鷹	210	174			普通4 農業2	6	
能代	210	193			普通5 理数1	6	
能代松陽	210	192			普通3 国際1	4	
					情報	2	
能代科学技術	175	115			工業	3	
					農業	2	
五城目	105	45			普通	3	
男鹿海洋	105	56			普通1 水産2	3	
男鹿工業	105	97			工業	3	
秋田西	175	174			普通	5	
金足農業	175	157			農業	5	
秋田	275	275	普通	6	理数	1	
秋田北	228	228		普通	6		
秋田南	228	228		普通	6		
秋田中央	210	211			普通	6	
新屋	175	175			普通	5	
秋田工業	210	205			工業	6	
秋田商業	240	241	商業	6			
御所野	80	66	普通	2			
本荘	210	209			普通	6	
由利	175	175			普通3 理1国1	5	
由利工業	140	119			工業	4	
矢島	60	19					普通 2
西目	140	127			総合	4	
仁賀保	115	50	普通	2	情報	1	

学校名	募集 定員	入 学 者 数	1学年の学級数			
			40人 学級	38人 学級	35人 学級	30人 学級
西仙北	60	19				普通 2
大曲農業	175	175			農業 5	
太田(分校)	35	7			普通 1	
大曲	195	195	普通 4		商業 1	
大曲工業	140	123			工業 4	
角館	210	205			普通 6	
六郷	105	60			普通2 福祉1	3
横手	235	235	普通 5		理数 1	
横手城南	160	160	普通 4			
横手清陵	150	124	普通 2		工業 2	
平成	105	88			普通2 商業1	3
雄物川	80	38	普通 2			
増田	115	104	総合 2		農業 1	
湯沢	175	135			普通4 理数1	5
湯沢翔北	180	172	普通 1		商業2 工業2	4
雄勝(地域校)	40	10	普通 1			
羽後	70	25			普通 2	
全県合計	7036	6112	39	12	140	4

<くり募集

定時制課程

学校名	募集 定員	入学 者数	1学年の学級数			
			40人学 級数	38人学 級数	35人学 級数	30人学 級数
大館鳳鳴	65	19			普通 1	普通 1
能代	35	17			普通 1	
秋田明德館	135	97			普通 3	普通 1
本荘	30	8				普通 1
角館	65	5			普通 1	普通 1
横手	65	32			普通 1	普通 1
全県合計	395	178	0	0	7	5

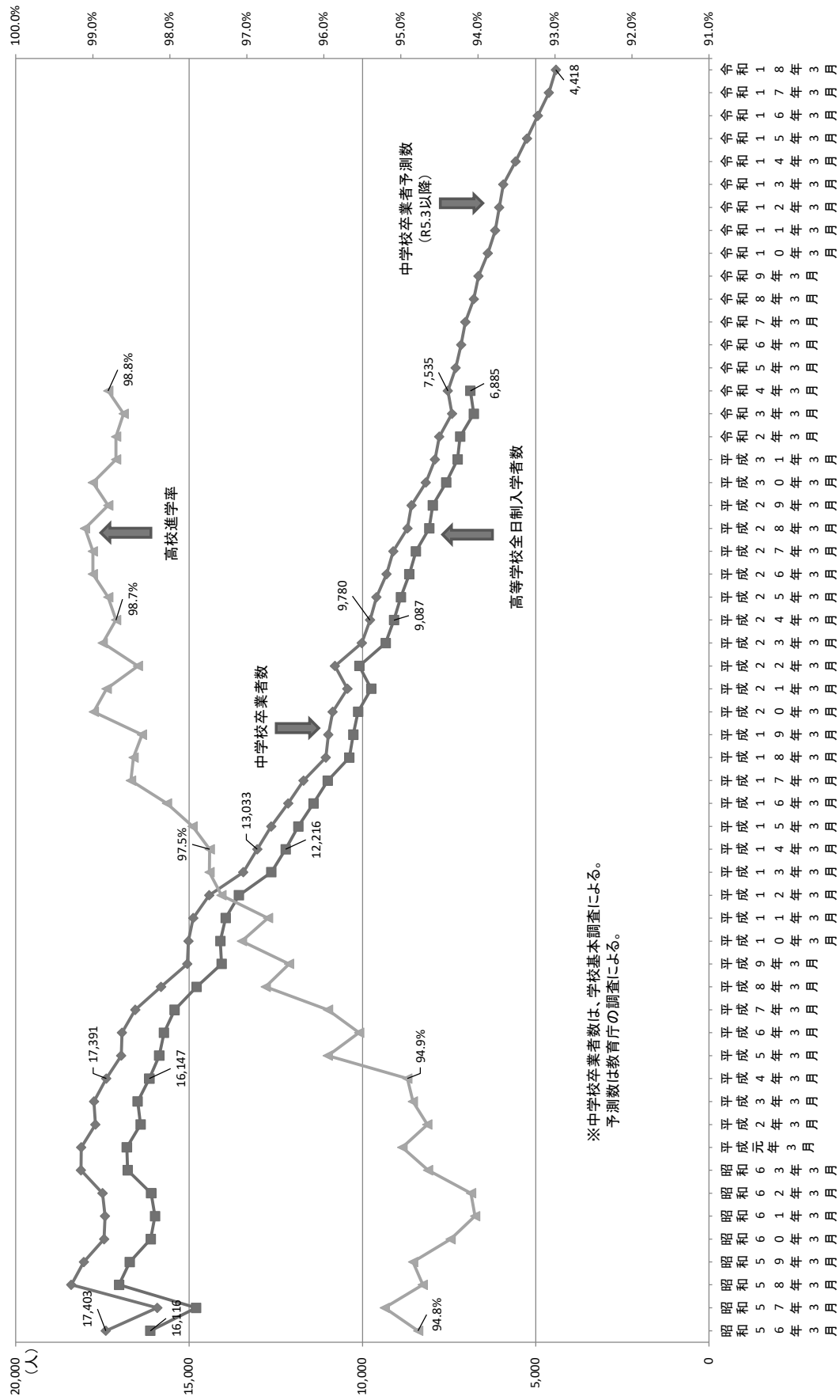
* 大館国際情報学院、秋田南高校、横手清陵学院、御所野学院の募集定員については、併設する中学校からの内部進学者数を含んでいる。

* <くり募集 … 二つ以上の学科を設置する高校において、各学科ごとに募集定員を定めずに、複数の学科でまとめて募集を行うこと。

秋田県立高等学校の創立からの経過年数及び校舎の整備状況

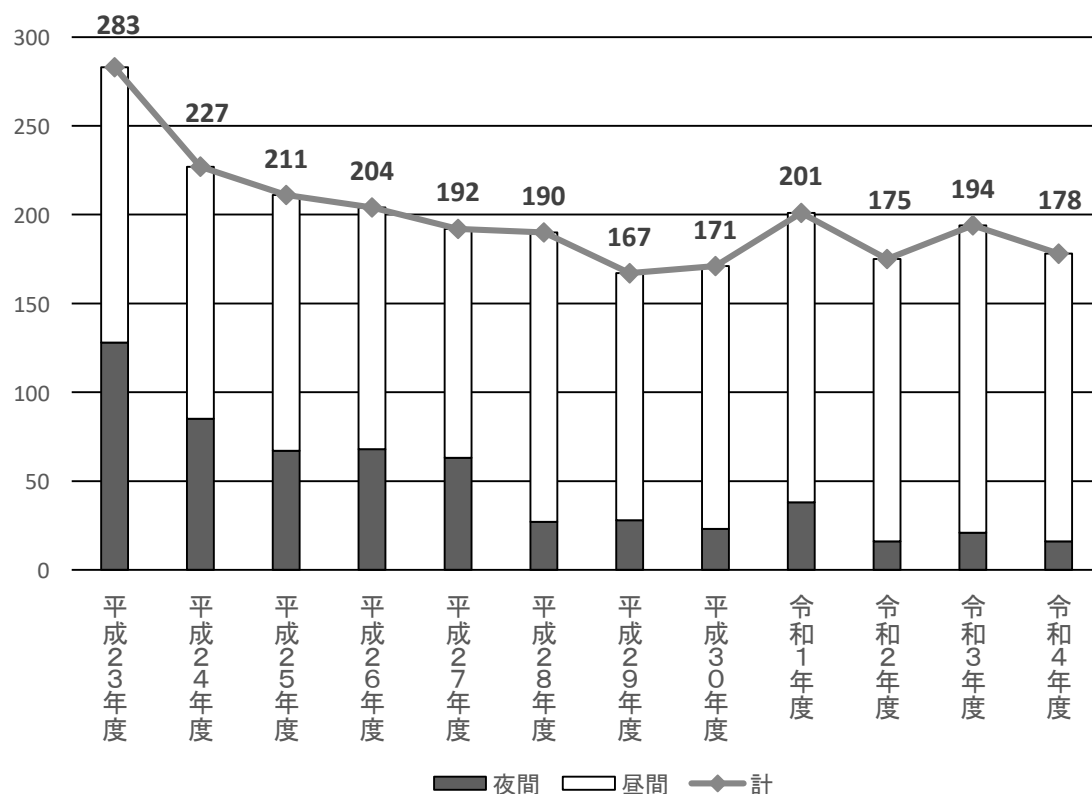
地 区			学校名	創立からの経過年数等（令和４年度現在）			校舎の状況（令和８年度現在）			
				創立年	経過年数	統合等再編整備及び学科の設置等に関する状況	現校舎建設年	経過年数	校舎改築、修繕等の状況	総事業費
1	県北	鹿角 小坂	1 花輪	大正15	96	R6 花輪(1926)と十和田(1943)と小坂(1916)が統合予定	平成15	23	校舎一部改修、実習棟更新 R3～R6 R6 統合校開校	約40億円
2			2 十和田	昭和18	79					
3			3 小坂	大正5	106					
4		大館	1 大館鳳鳴	明治31	124		昭和54	47	大規模修繕R4～	
5			2 大館桂桜	平成28	6	H28 大館桂(1913)、大館(1992)、大館工業(1963)が統合	平成28	10	改築事業H25～H28	約50億円
6			3 大館国際情報学院	平成17	17	H17 大館商業(1962)が母体の中高一貫教育校として開校	平成17	21		
7			4 大館鳳鳴（定時制）	平成28	6	H28 大館定時制夜(1992)より移管、昼間部開設、 スペースイオ設置	平成3	35		
8		北秋田	1 秋田北鷹	平成23	11	H23 鷹巣農林(1909)、米内沢(1945)、合川(1962)、 鷹巣(1967)が統合	平成22	16	改築事業H20～H24	約52億円
9		能代 山本	1 能代	大正13	98		昭和49	52		
10			2 能代松陽	平成25	9	H25 能代北(1914)と能代商業(1922)が統合	平成25	13	改築事業H22～H28	約44億円
11			3 能代科学技術	令和3	1	R3 能代工業(1912)と能代西(1945)が統合	令和3	5	改築事業H31～R5	約62億円
12			4 能代（定時制）	令和3	1	R3 ニツ井高校(1964)と能代工業定時制(1961)を再編	平成3	35		
1	中央	秋田	1 金足農業	昭和3	94		昭和47	54	改築事業R5～	未定
2			2 秋田	明治6	149		昭和61	40		
3			3 秋田北	明治34	121	H20 男女共学化	平成13	25		
4			4 秋田南	昭和37	60	H28 秋田南高校中等部設置	平成9	29		
5			5 秋田中央	大正9	102		平成26	12	改築事業H25～H28	約46億円
6			6 新屋	昭和59	38		昭和59	42		
7			7 秋田工業	明治36	119		平成28	10	改築事業H25～H30	約70億円
8			8 秋田明徳館	平成17	17	H17 秋田東(1943)、秋田中央定時制(1948)、 秋田工業定時制(1951)が統合	平成17	21		
9		男鹿 潟上 南秋	1 五城目	昭和17	80		昭和52	49		
10			2 男鹿海洋	平成16	18	H16 海洋技術(1946)と男鹿(1958)が統合	昭和50	51		
11			3 男鹿工業	昭和56	41		昭和56	45		
12			4 秋田西	昭和54	43		昭和54	47		
13		由利 本荘 にかほ	1 本荘	明治35	120		昭和63	38	大規模修繕R4～	
14			2 由利	大正9	102	H19 男女共学化	平成19	19		
15			3 由利工業	昭和37	60		平成15	23		
16			4 矢島	大正15	96	H21 矢島中学校との校舎一体型中高連携校	平成21	17		
17			5 西目	昭和17	80	H8 総合学科設置	昭和49	52		
18			6 仁賀保	昭和52	45		昭和52	49		
19			7 本荘（定時制）	昭和23	74		-	-	（本荘高校内）	
1	県南	大仙 仙北	1 西仙北	昭和40	57		平成2	36		
2			2 大曲農業	明治26	129		平成28	10	改築事業H25～H29	約48億円
3			3 大曲農業太田分校	昭和18	79		昭和61	40		
4			4 大曲	明治41	114		令和8	0	改築事業R3～R8(予定)	約73億円
5			5 大曲工業	昭和37	60		昭和47	54	H25実習棟・体育館改築	
6			6 角館	平成26	8	H26 角館(1926)と角館南(1928)が統合して開校	平成26	12	S48年築の校舎を H27スーパーリニューアル	
7			7 六郷	昭和23	74		昭和56	45	H26 体育館改修	
8			8 角館（定時制）	昭和23	74	H27 午前の部開設、H28 スペースイオ設置	平成27	11	S44年築の角館南高校校舎を H27大規模修繕	
9		横手	1 横手	明治31	124	H18 横手工業(1994)から移管、H20 昼間部設置、 スペースイオ設置	令和7	1	改築事業R2～R7(予定)	約65億円
10			2 横手城南	大正2	109	H20 男女共学化	平成10	28		
11			3 横手清陵学院	平成16	18	H16 横手工業(1943)が母体の中高一貫教育校として開校	平成16	22		
12			4 平成	平成6	28	H6 平鹿(1961)と横手東(1965)が統合	平成6	32		
13			5 雄物川	昭和26	71		昭和58	43		
14			6 増田	大正14	97	H7 総合学科設置	昭和48	53		
15			7 横手（定時制）	平成18	16		平成20	18		
16		湯沢 雄勝	1 湯沢	昭和18	79		昭和49	52	改築事業R5～	未定
17			2 湯沢翔北	平成23	11	H23 湯沢北(1918)と湯沢商工(1965)が統合	平成23	15	改築事業H21～H24	約55億円
18			3 湯沢翔北（雄勝校）	平成31	3	R2 雄勝高校を湯沢翔北の地域校として再編	昭和53	48		
19			4 羽後	昭和23	74		昭和61	40		

秋田県中学校卒業者と今後の予測・高等学校全日制課程入学者数と高校進学率の推移

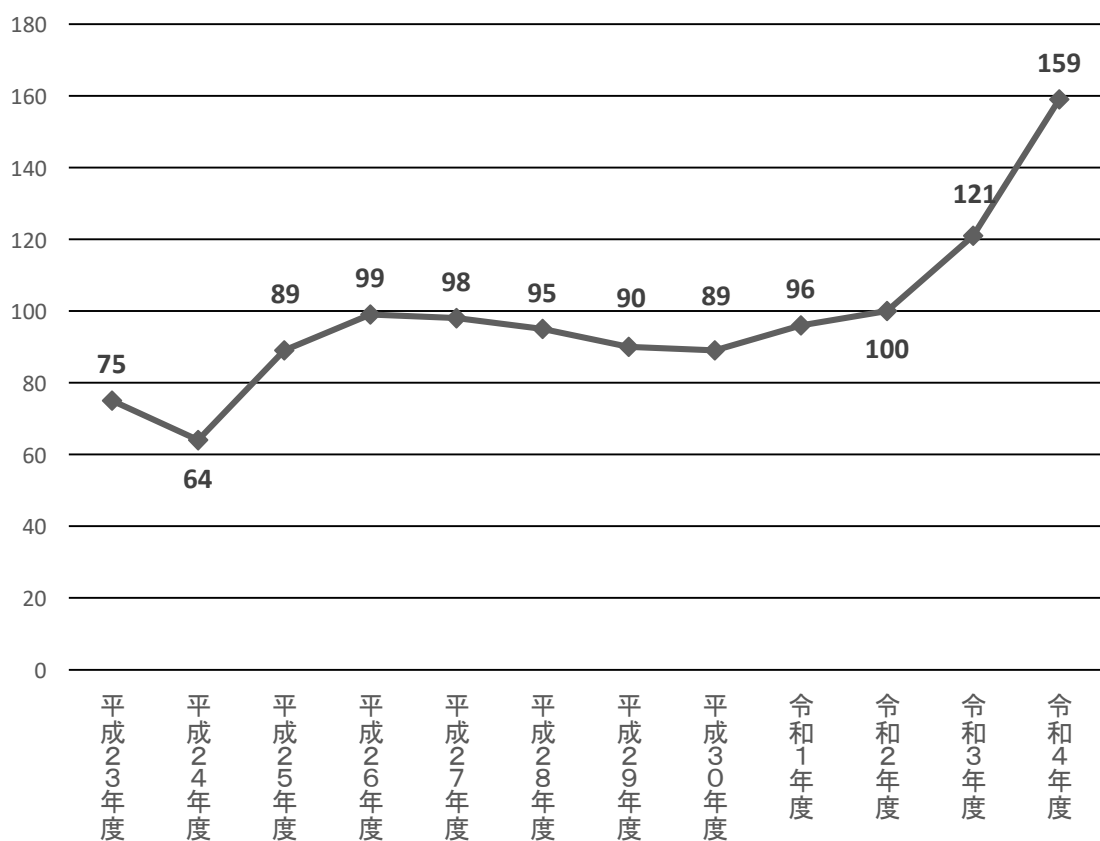


資料3 - 2

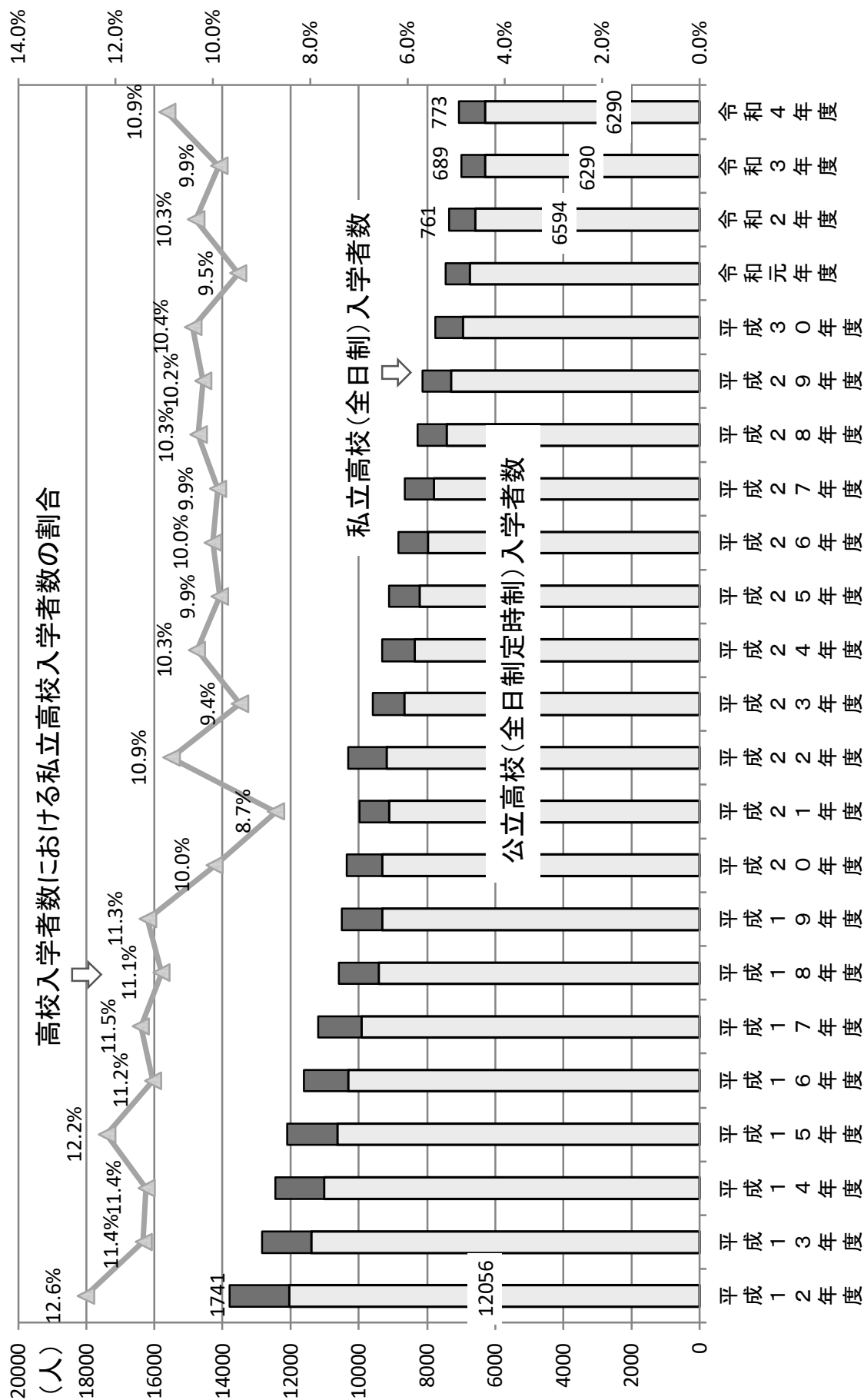
秋田県公立高等学校定時制課程 入学者数（当該年度中学校卒業生数）



秋田県公立高等学校通信制課程 入学者数（当該年度中学校卒業生数）



秋田県公立高等学校・私立高等学校入学者数とその割合の推移



資料4 - 1

令和5年3月以降の中学校卒業生数の予測（令和4年4月1日現在の速報値）

	地区 卒業年	鹿角 小坂	大館北秋田		能代 山本	県北 小計	秋田	男鹿湯上 南秋	由利本荘 にかほ	中央 小計	大仙 仙北	横手	湯沢 雄勝	県南 小計	全県 合計	
			①	②												
高3	R2.3	271	542	229	563	1605	2549	627	803	3979	971	770	459	2200	7,784	
	前年比	6	-21	-2	-27	-44	-52	-36	-50	-138	12	62	-24	50	-132	
高2	R3.3	261	590	236	525	1612	2442	531	761	3734	940	715	412	2067	7,413	
	前年比	-10	48	7	-38	7	-107	-96	-42	-245	-31	-55	-47	-133	-371	
高1	R4.3	267	538	195	573	1573	2517	578	809	3904	962	722	378	2062	7,539	
	前年比	6	-52	-41	48	-39	75	47	48	170	22	7	-34	-5	126	
中3	R5.3	265	528	202	516	1511	2456	521	774	3751	928	688	433	2049	7,311	R4.3比
	前年比	-2	-10	7	-57	-62	-61	-57	-35	-153	-34	-34	55	-13	-228	-228
中2	R6.3	247	547	192	506	1492	2433	552	767	3752	879	624	404	1907	7,151	
	前年比	-18	19	-10	-10	-19	-23	31	-7	1	-49	-64	-29	-142	-160	-388
中1	R7.3	266	499	203	475	1443	2451	466	757	3674	871	643	400	1914	7,031	
	前年比	19	-48	11	-31	-49	18	-86	-10	-78	-8	19	-4	7	-120	-508
小6	R8.3	244	474	198	472	1388	2308	481	716	3505	861	629	402	1892	6,785	
	前年比	-22	-25	-5	-3	-55	-143	15	-41	-169	-10	-14	2	-22	-246	-754
小5	R9.3	243	472	192	419	1326	2313	506	700	3519	804	650	350	1804	6,649	
	前年比	-1	-2	-6	-53	-62	5	25	-16	14	-57	21	-52	-88	-136	-890
小4	R10.3	211	448	163	404	1226	2307	487	644	3438	783	577	358	1718	6,382	
	前年比	-32	-24	-29	-15	-100	-6	-19	-56	-81	-21	-73	8	-86	-267	-1,157
小3	R11.3	222	417	176	388	1203	2205	441	666	3312	754	563	339	1656	6,171	
	前年比	11	-31	13	-16	-23	-102	-46	22	-126	-29	-14	-19	-62	-211	-1,368
小2	R12.3	194	400	149	348	1091	2284	464	591	3339	737	534	350	1621	6,051	
	前年比	-28	-17	-27	-40	-112	79	23	-75	27	-17	-29	11	-35	-120	-1,488
小1	R13.3	174	393	161	363	1091	2176	424	606	3206	790	559	289	1638	5,935	
	前年比	-20	-7	12	15	0	-108	-40	15	-133	53	25	-61	17	-116	-1,604

* R4. 3月までの卒業生数は、当該年度4月1日現在の中学3年在学者数としている。

* R5. 3月からR13. 3月の卒業生数は、令和4年4月1日現在の義務教育課調査を基にした速報値による。

* 大館北秋田地区の欄で、①は大館市の計②は北秋田市と上小阿仁村の計である。

* 秋田市の人数には、秋田大学教育文化学部附属中学校と同附属小学校も加えている。

令和14年3月以降の中学校卒業生数の予測(令和3年10月1日現在)

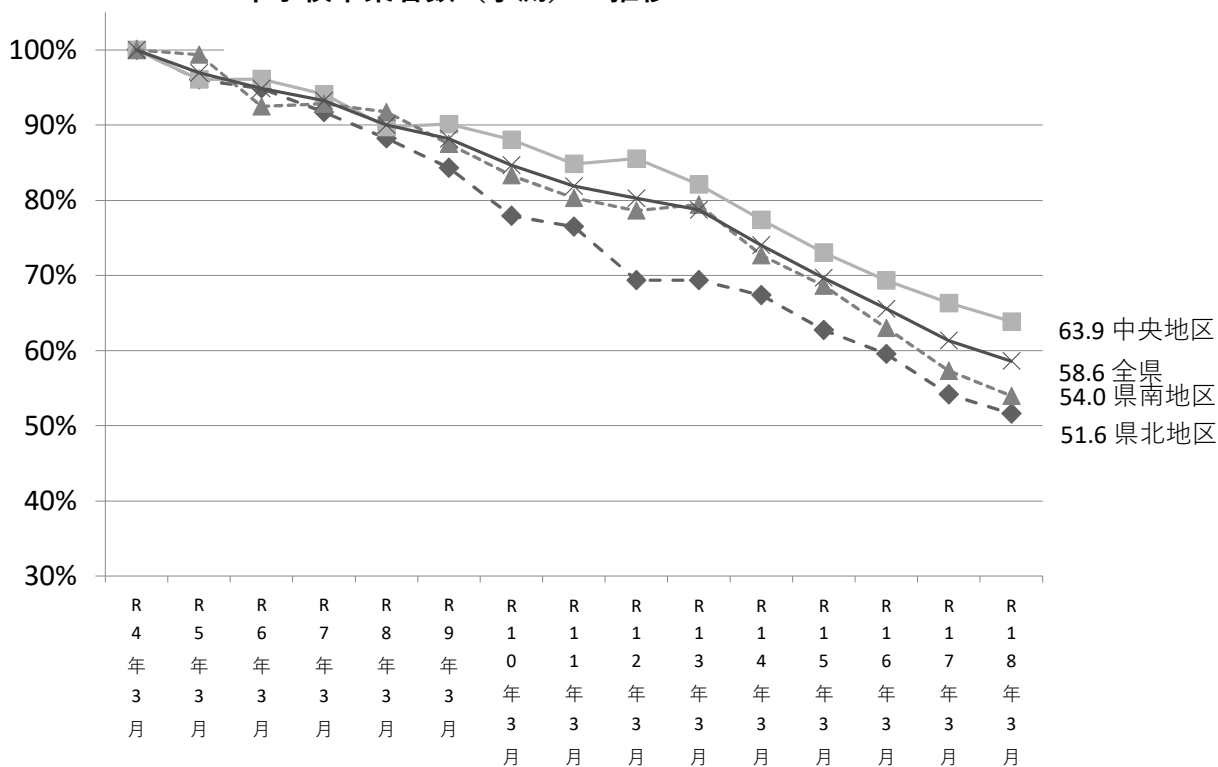
		鹿角	大館北秋		能代	県北	秋田	男鹿潟	由利本荘	中央	大仙	横手	湯沢	県南	全県
		小坂	①	②	山本	小計		上南秋	にかほ	小計	仙北		雄勝	小計	合計
5~6歳	R14.3	178	381	154	347	1060	2046	414	561	3021	696	499	304	1499	5,580
	前年比														
4~5歳	R15.3	166	359	142	320	987	1950	378	523	2851	659	468	288	1415	5,253
	前年比	-12	-22	-12	-27	-73	-96	-36	-38	-170	-37	-31	-16	-84	-327
3~4歳	R16.3	161	353	127	296	937	1854	342	510	2706	591	451	257	1299	4,942
	前年比	-5	-6	-15	-24	-50	-96	-36	-13	-145	-68	-17	-31	-116	-311
2~3歳	R17.3	153	327	100	272	852	1789	331	470	2590	533	416	233	1182	4,624
	前年比	-8	-26	-27	-24	-85	-65	-11	-40	-116	-58	-35	-24	-117	-318
1~2歳	R18.3	145	293	97	277	812	1738	311	444	2493	517	375	221	1113	4,418
	前年比	-8	-34	-3	5	-40	-51	-20	-26	-97	-16	-41	-12	-69	-206
0~1歳	R19.3														
	前年比														

※ 令和14年3月以降の卒業生数は、令和3年10月1日現在の秋田県の人口統計により次のように計算した。

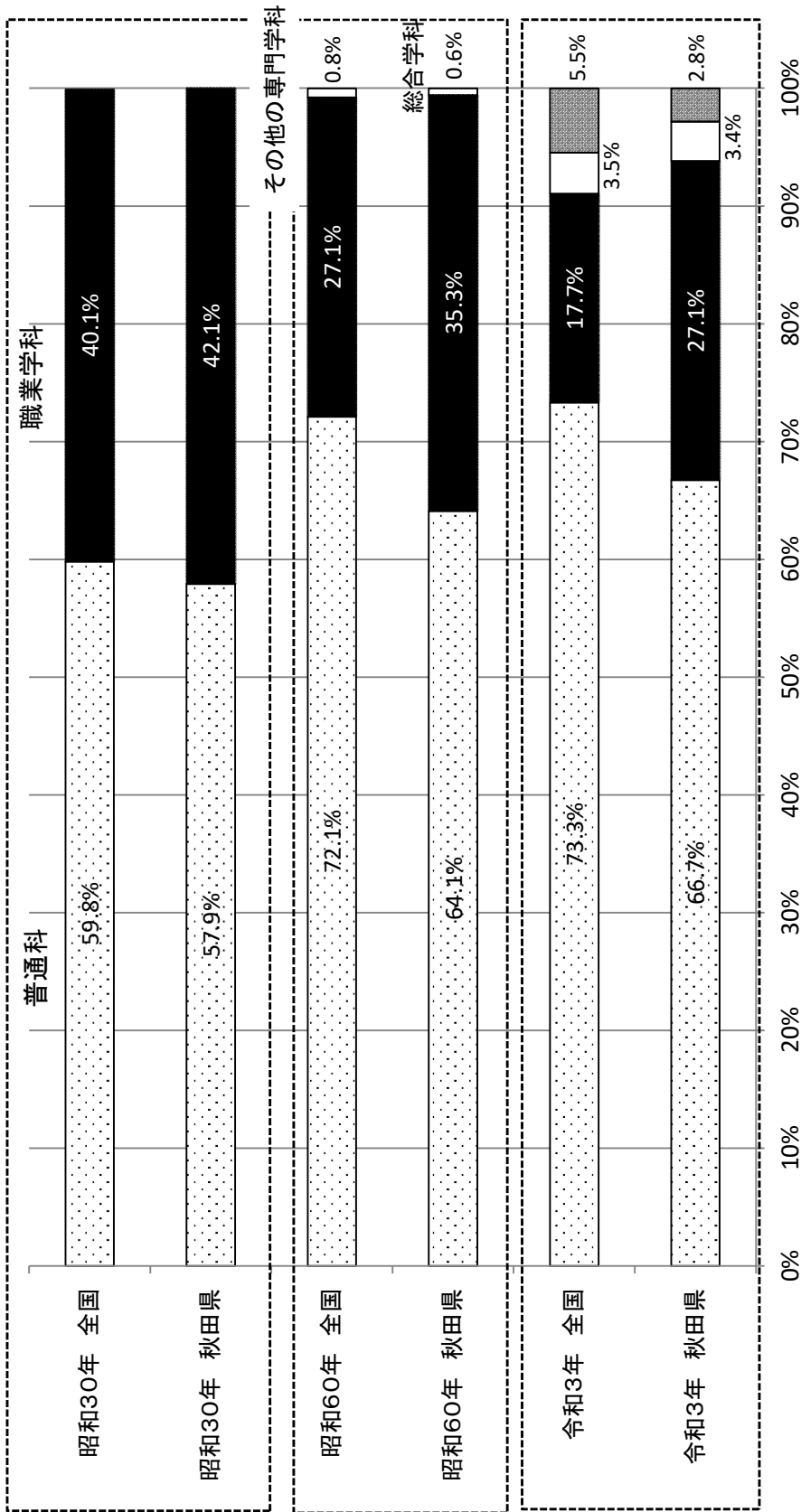
令和14年3月中学校卒業予定者は、令和3年10月1日現在の5歳児数と4歳児数を加算し平均したものとし、以下同様とする。

なお、令和14年3月の前年比は、基礎統計が異なるため比較していない。また、令和19年3月の統計はまだ出ていない。

中学校卒業生数（予測）の推移

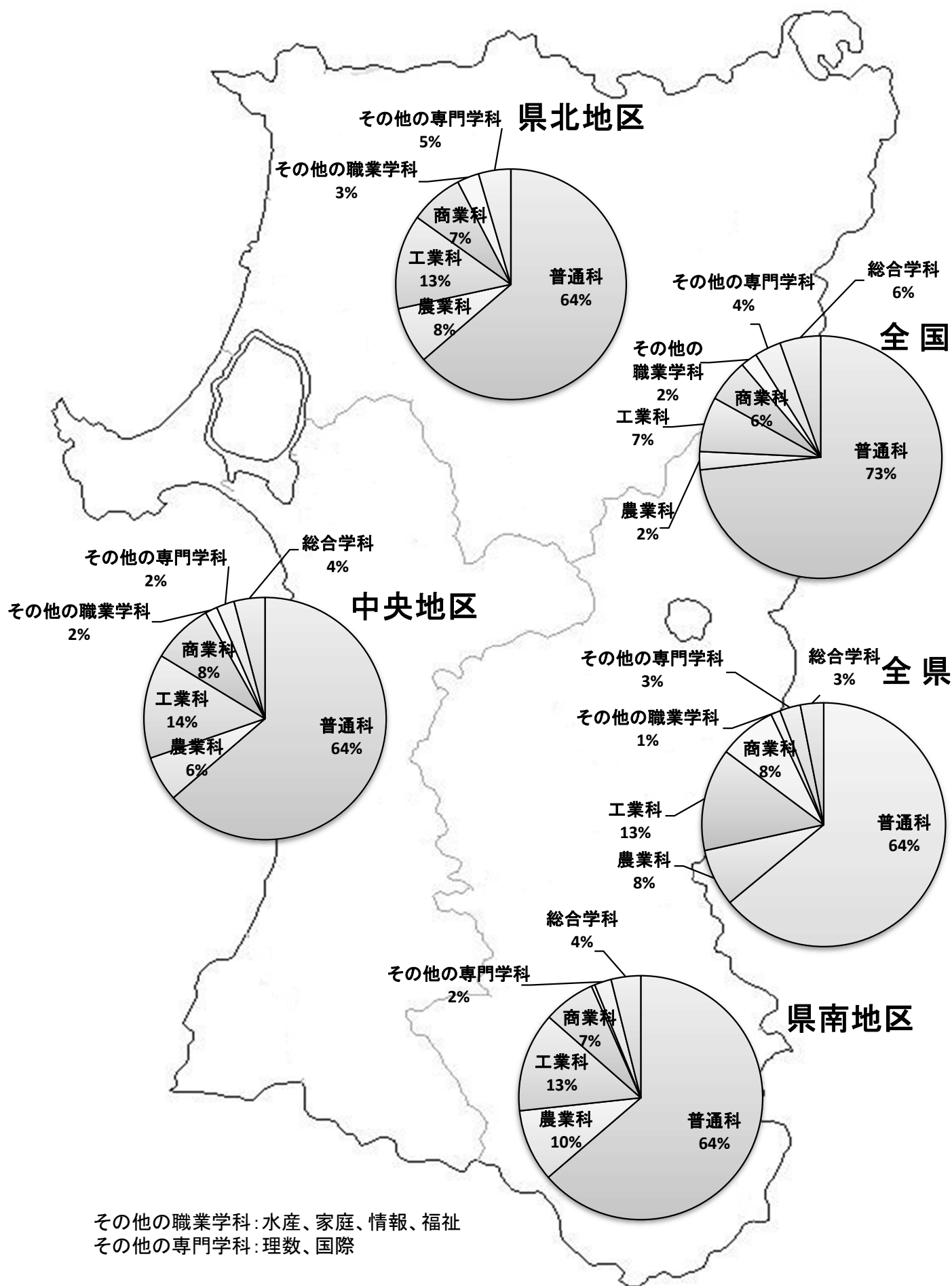


普通科・職業学科・総合学科・その他の専門学科の在籍者数の割合
(国公立私立、全日制課程定時制課程)



職業学科：農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉 その他の専門学科：理数、国際 令和3年度は5月1日の在籍者数 学校基本調査による

令和3年度学科別の在籍者数の割合



資料 5 - 3

令和4年度秋田県公立高等学校（全日制）学科別の募集定員とその割合

県北地区

全日制												中学卒業生数	定時制
普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	理数	国際	総合	合計	(暫定値)	普通
990	140	245	140	0	35	0	0	70	35	0	1655	1573	100
60%	8%	15%	8%	0%	2%	0%	0%	4%	2%	0%	100%		
普通	職業を主とする専門学科							その他の専門学科		総合	合計		
990	560							105		0	1655		
60%	34%							6%		0%	100%		

中央地区

全日制												中学卒業生数	定時制
普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	理数	国際	総合	合計	(暫定値)	普通
1931	175	455	240	70	0	35	0	70	35	140	3151	3904	165
61%	6%	14%	8%	2%	0%	1%	0%	2%	1%	4%	100%		
普通	職業を主とする専門学科							その他の専門学科		総合	合計		
1931	975							105		140	3151		
61%	31%							3%		4%	100%		

県南地区

全日制												中学卒業生数	定時制
普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	理数	国際	総合	合計	(暫定値)	普通
1415	210	280	140	0	0	0	35	70	0	80	2230	2062	130
63%	9%	13%	6%	0%	0%	0%	2%	3%	0%	4%	100%		
普通	職業を主とする専門学科							その他の専門学科		総合	合計		
1415	665							70		80	2230		
63%	30%							3%		4%	100%		

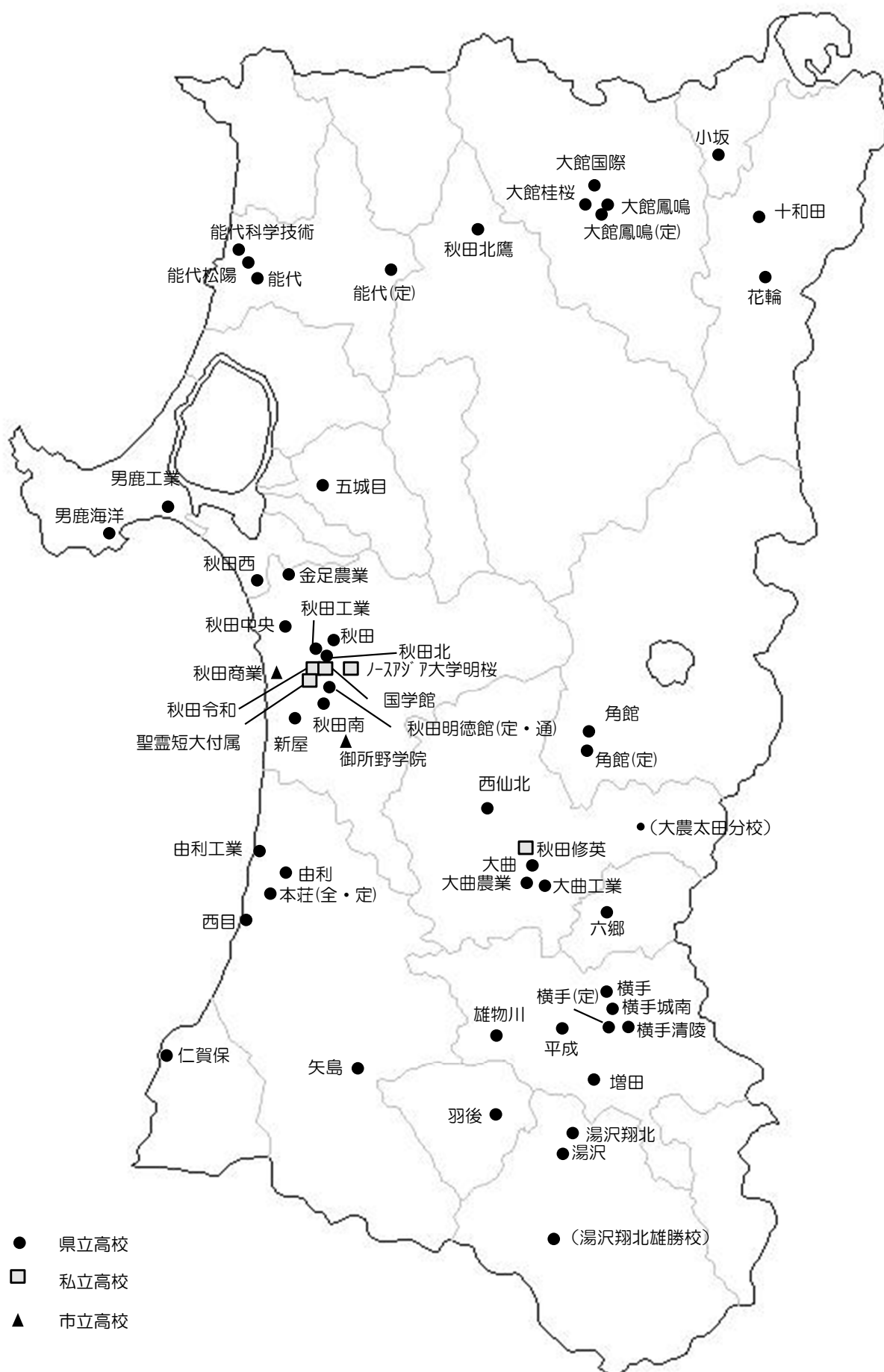
全県

全日制												中学卒業生数	定時制
普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	理数	国際	総合	合計	(暫定値)	普通
4336	525	980	520	70	35	35	35	210	70	220	7036	7539	395
62%	7%	14%	7%	1%	0%	0%	0%	3%	1%	3%	100%		
普通	職業を主とする専門学科							その他の専門学科		総合	合計		
4336	2200							280		220	7036		
62%	31%							4%		3%	100%		

※ くくり募集の高校は、2年次の学科の定員で計算

※ なお、私立高校の定員は1,445名（中央地区1,340名、県南地区105名）

令和4年度 秋田県の高等学校配置図



これまでの総合整備計画

期 間	計画名	計画期間の主な動き
昭和50～55年度	第一次秋田県高等学校 拡充整備計画	昭和52 仁賀保高等学校開校 昭和53 雄勝高等学校開校、稲川分校開校 昭和54 秋田西高等学校開校
昭和56～62年度	第二次秋田県高等学校 拡充整備計画	昭和56 男鹿工業高等学校開校 昭和57 秋田中央高等学校開校 昭和59 新屋高等学校開校
昭和61～ 平成7年度	第三次秋田県高等学校 再編整備計画	昭和63 大森分校、高瀬分校閉校 平成4 大館南高等学校と大館東高等学校 の統合（大館高等学校開校） 平成6 平鹿高等学校と横手東高等学校の 統合（平成高等学校開校）
平成6～12年度	第四次秋田県高等学校 改善整備計画	※総合学科の設置 （平成7年増田高等学校、8年西目高等学校、 10年能代西高等学校） 平成11 笹子分校閉校 平成12 御所野学院高等学校開校
平成13～22年度	第五次秋田県高等学校 総合整備計画	平成15 下郷分校閉校 平成16 横手清陵学院高等学校開校 海洋技術高等学校と男鹿高等学校 の統合（男鹿海洋高等学校開校）
	第五次秋田県高等学校 総合整備計画後期計画	平成17 明德館高等学校開校 大館国際情報学院高等学校開校 ※女子校の共学化（平成19年由利高等学校、 20年秋田北高等学校、20年横手城南高等学校）
平成23～27年度	第六次秋田県高等学校 総合整備計画	平成23 鷹巣農林高等学校、鷹巣高等学校、 米内沢高等学校、合川高等学校の統 合（秋田北鷹高等学校開校） 平成23 湯沢北高等学校と湯沢商工高等学 校の統合（湯沢翔北高等学校開校） 平成25 能代北高等学校と能代商業高等学 校の統合（能代松陽高等学校開校） 平成26 角館高等学校と角館南高等学校の統 合（角館高等学校開校）
平成28～ 令和7年度	第七次秋田県高等学校 総合整備計画	平成28 大館桂高等学校、大館高等学校、大 館工業高等学校の統合 （大館桂桜高等学校開校） 平成29 稲川分校閉校 令和2 雄勝高校を湯沢翔北高等学校雄勝校 とする
	第七次秋田県高等学校 総合整備計画後期計画	令和3 能代工業高等学校と能代西高等学 校の統合（能代科学技術高等学校開校） 二ツ井高校を能代高校定時制課程に 再編

秋田県高等学校の再編整備についての基本的な考え方・基準 (第七次秋田県高等学校総合整備計画 第Ⅱ部から)

【学校の統合等再編整備の推進】

- 本県においては生徒数の一層の減少が予想されているが、そうした中であっても、教育の質を高め、高校生がそれぞれの目標を実現し、社会的・職業的に自立できるよう活力ある教育活動を展開していくことが重要である。同時に、高校進学率が98%を超える状況において、生徒の興味・関心や適性等に応じて教育を受ける機会を整えていくことも必要であると考え、県内各地域の事情や全県的なバランスを踏まえながら、学校規模の適正化と望ましい配置の実現を図ることにより、活力に満ちた魅力ある学校づくりを推進する。
- 平成8年度以降、公立高校では中学校卒業者の減少に応じて学級減を進めており、「第六次計画」(平成23年度～平成27年度)の5年間にはおよそ27学級を減じてきた(40人学級換算)。また、教育効果等を考慮して、専門高校に35人学級を導入するとともに、普通高校でも一部35人学級にすることで段階的に入学定員を減らすなどの措置をとってきた。
- 学校規模が縮小している中においても定員割れが生じている。背景には学校や地域に配慮して緩やかに学級減を進めてきたことがある。こうした状況が今後も続けば、更に多くの学校が小規模化し、定員割れが慢性化するなど、高等学校教育の質が低下することが懸念される。
- 「第五次秋田県高等学校総合整備計画後期計画」(平成18年度～平成22年度)に示された5地区6高校の統合計画については、すでに5校が開校している。

しかし、今後も生徒数の減少が続くことが予測される中、適切な学校規模を維持し、教育環境を整えていくために、これからの時代に対応した新しい計画を策定する必要がある。

【学校の適正規模等について】

- 多様な個性との出会いや社会性の育成に加え、教職員数の確保による教育課程の充実など、高校としての教育効果を最大限上げるという視点から、1 学年 4 ～ 8 学級を適正規模とする。
- 長期的な見通しをもって計画的に統合等再編整備を進める。
- 地域への影響も考慮し、段階を踏んで進めることも検討しながら、活力に満ちた魅力ある高等学校教育の実現を目指して計画を推進する。

【進学に関する指導体制の充実について】

各地区において、これまで進学を中心校としての役割を果たしてきた次の学校については、教育の水準を維持・向上させながら大学進学等へのニーズに対応するため 6 学級以上を維持することが望ましい。ただし、入学者数等の状況を見ながら 5 学級程度とすることも検討する。

大館鳳鳴、能代、秋田、秋田北、秋田南、秋田中央、本荘、大曲、横手、湯沢

【農業と工業の専門教育の充実について】

農業と工業の専門高校及び農業科や工業科等をもつ高校は、互いに連携しながら我が国の産業や地域の発展を支える人材の育成を進める必要がある。現在、農業と工業の専門教育を各地区において担っているのは次の学校である

これらの中でも、金足農業高校、大曲農業高校、秋田工業高校、大曲工業高校は、本県における農業や工業の中心的な専門高校として、専門教育の充実を図るため4～5学級程度を維持することが望ましい。

学科	県北	中央	県南
農業	秋田北鷹	金足農業	大曲農業、増田
工業	小坂、大館桂桜、 能代工業	男鹿工業、秋田工業、 由利工業	大曲工業、横手清陵、 湯沢翔北
総合	能代西	西目	

【各地区における統合等再編整備の進め方について】

統合等再編整備については、地元や関係各部局等との調整を進め、準備が整ったところから順次、事業に着手することとする。その中でも、統合など一定の時間を要する事業については、長期的な展望をもってスケジュールを策定する必要がある。

【統合等再編整備の方針について】

- 生徒が意欲的に学習や諸活動に取り組み、それぞれの目標の実現に向かって生き生きと学ぶことができる魅力ある学校を設置するため、2～3校を発展的に統合し、新たに統合校を開校することを基本とする。
- 1学年2～3学級規模の小規模校について
 - a) 近隣の学校との統合により、活力に満ちた魅力ある学校づくりを進めることを基本とする。
 - b) 様々な事情により統合が困難である場合は、近隣の学校の地域校とし、より地域に根ざした教育活動を行う。地域校を設置する時期については、長期的な視野に立って教育活動を進める必要があることを踏まえ、計画的に設定する。入学者数の長期的な増加傾向が見込まれるなど、その後情勢に大きな変化があった場合は検討する。地域校において入学者数の減少が著しい場合は、下記の基準に沿って対応する。
 - c) 統合が困難で、かつ、地域の中学生への影響、通学状況、学科の特質等、全県的な視野から特別な事情があると考えられる学校については、計画的な地域校化は行わず、下記の基準に沿って対応する。

基準

- ・ 1学年2学級規模の学校において、入学者数が募集定員の2／3以下の状態が2年間続いた場合、原則として地域校化や統合、募集停止等とする。
- ・ 地域校においては、入学者数が募集定員の2／3以下の状態が2年間続いた場合、原則として募集停止とする。

- 現在ある分校については募集停止とする。募集停止の時期は計画期間中を目途として検討する。

【定時制課程・通信制課程の改善・充実について】

- 定時制課程・通信制課程を志望する生徒の入学動機や学習歴は多様である。生徒の事情に即し、多様な学びの場を提供するために、県内3地区に1校ずつ配置する基幹校を中心に定時制・通信制課程の充実を図る。
- これまで各地区においては、多部制、単位制、フリースクールの空間（スペース・イオ）などの機能を有し、地区の定時制教育の中心となる定時制基幹校を設置してきた。働きながら学ぶ生徒の教育の場として、また、不登校・中途退学経験者等への学び直しや社会人の学びの機会の提供など、多様な学習ニーズに応える場として、定時制課程・通信制課程の充実を図っていく必要がある。
- 定時制課程への入学者数はここ数年漸減傾向にあるが、昼間の部の入学者数は減っていない。入学者数や地域事情、定時制課程で学ぶ生徒の状況等を検討しながら、より生徒の実態に即した定時制課程を目指して改善・充実を図る必要がある。

【中高一貫教育の充実】

中高一貫教育は、児童や保護者の選択の幅を広げ、多様な中等教育を推進することによって、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばす教育の実現を目指すものである。また、ゆとりある学校生活の下、教育課程の基準の特例を活用するなど、6年間の計画的・継続的な教育活動を推進することが期待されている。

県北、県南に続いて、秋田地区にも県立の中高一貫教育校を設置し、3校がそれぞれ特色のある中高一貫教育を推進することにより、当該校はもとより、本県高等学校教育全体のレベルアップを目指す。

【学科の改善・充実】

- これからの高等学校教育においては、基礎的な学力を確実に習得させるとともに、一人一人の能力や個性を伸ばし、個々の進路に応じた学習を深められることが重要である。
- 普通科においては、自己の将来を見据えた上で求められる高度な知識を身に付け、幅広い見識を育てる必要がある。また、専門学科では、それぞれの専門性の深化を図る一方で、技術の進展に対応できる力や新しい価値を育てることが不可欠であり、そのために、指導の在り方を常に見直し、社会の変化に対応させていくことのできる柔軟性も重要である。複数の学科を有する学校においては、学科間連携を強化するとともに、学科の教育力を全校の教育力とするための工夫が必要である。
- 統合等再編整備に当たって学科・コースを検討する場合、これまでの成果と課題の検証とともに、中学生の志望動向や地域産業との関わり、生徒の進路実績など多様な視点から分析するとともに、長期的な見通しに立って全県的な学科構成のバランスを考慮し、慎重に検討を行う必要がある。